

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター 富岳学園		
○保護者評価実施期間	令和8年3月5日		～ 令和8年3月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40	(回答者数) 31
○従業者評価実施期間	令和8年3月5日		～ 令和8年3月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちの活動スペースがしっかりと確保されていて、構造化された空間で安心して過ごすことができること	子どもたちが活動する空間はいつも清潔に危険のないように配慮をしています。また、視覚支援を用いて1日の予定をわかりやすく提示するなど、子どもたちに合わせた空間づくりをしています。	職員が気づき、リスクマネジメントを行いながら、整理整頓を徹底し、子どもたちが引き続き安心して過ごせる空間を目指していきます。
2	園と保護者間でお子さんの状況について共通理解ができる環境であること	LINEWORKSを活用し、職員と保護者の方がいつでも情報共有ができるようにしています。また、職員全体でも共有ができるように努めています。	日々の活動写真などを通して、お子さんの成長が職員と保護者の方で共有ができるように取り組んでいきます。また、HPやインスタの更新も随時行っています。
3	個別支援計画に沿った支援が行われていること	面談時に保護者の方のニーズを伺いながら、子どもたち一人一人に合った支援プログラムを提供できるようにしています。今年度は「ちゃれんじ」という活動時間を設けて取り組んできました。	「ちゃれんじ」は継続して取り組み、取り組んだ内容や子どもの様子については記録を取り、振り返りができるように取り組んでいきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の施設や幼稚園等との交流や外部研修への職員の参加	地域とのつながりが課題となっています。自施設から積極的に交流する機会が持ていないことが要因と考えます。	HPやインスタを通して富岳学園のことをより多くの方に知っていただき、積極的に交流機会をつくる必要があると考えます。
2	保護者同士の交流機会や兄弟向けのイベントの開催	時代の変化によって、園に来園することが難しくなっていたり、保護者ニーズも変化していると考えます。しかし、行事に対する工夫点も足りていなかったことが要因だと考えます。	保護者会と共同で交流できる機会を設けたり、現在行われているイベントにおいても、保護者同士・兄弟も参加ができるように工夫をしていく必要があると考えます。
3			